

## はじめに

福島 二郎・事務局

『那須烏山市まちづくり研究会』は、平成の大合併により誕生した那須烏山市のこれからのまちづくりについて、栃木県内大学等の高等教育機関と地元商工会および行政が連携し、さらに広く市民を交える機会と仕組みづくりを模索しながら、2006年7月に発足した。

発足の発端は、那須烏山市と烏山商工会（当時。2008年4月に那須烏山商工会に改編）から、県内大学教員や県職員OB等で構成される『とちぎ観光資源活用研究会』に、新生那須烏山市のまちづくりに関するアドバイスの要請が寄せられたことにはじまる。この依頼に応じて、県内5大学の教員有志が、市の窓口となる商工観光課および商工会との数次にわたる意見交換を経て発足した。発足当初は、足利工業大学・宇都宮共和大学・宇都宮大学・国際医療福祉大学・作新学院大学の5大学による研究室・ゼミの参加により、その活動が開始された。その後、いくつかの離合集散を経て、2014年4月現在、5大学1高校にNPOなど7つの市民グループを加えた組織として活動している。

この『那須烏山市まちづくり研究会』は、年度末に当該年度の活動や研究成果の報告会を市民向けに開催・公表するとともに、また、3年毎に研究課題の見直しを行っている。平成26年度は発足9年目の節目の年度であり、その見直しの3期目となる。

これまで、当研究会では、発足から3年間にわたる活動および研究成果に関する報告書を2010（平成22）年3月に上梓している。しかしながら、その報告書は、発足して日も浅く、また研究会としての活動も手探り状態であった時期の言わば活動紹介としての報告書である。それから2期6年を加え、9年間にわたる活動の中には、研究会事業としての取り組みが恒例化するなど充実した事業運営も構築されてきた。また、先述のとおり研究会を構成する大学等に入れ替わりがあり、さらに、市内の栃木県立烏山高等学校が加わるとともに、市民団体もオブザーバー委員として研究会の活動の一翼を担うなど、その活動が活発化している。

そこで、当研究会活動の3期9年間の節目に、これまでの活動および研究成果に係わる報告書を制作することとした。報告書の構成は、『那須烏山市まちづくり研究会』の組織と構成、委員会を構成する大学等の研究課題と活動趣意、研究会事業の報告、オブザーバー委員（市民団体）の活動紹介と報告、研究会に参加していた大学等の紹介、研究会の活動記録と事務報告であり、2014（平成26）年度末までの報告を目途にしている。研究会を構成する大学・高校・市民団体の活動・狙い・成果を開陳し、さらに事務局の役割・運営手法等を振り返り、これからの研究会の方向性を検討する契機になることを念頭においている。忌憚のないご意見とともに、ご叱正を頂戴できれば幸いである。

## 『那須烏山市まちづくり研究会』の設立趣意

福島 二郎・事務局

『那須烏山市まちづくり研究会』は、「発刊にあたって」および「はじめに」でも著述されているとおり、合併間もない新生那須烏山市から、そのまちづくり支援について要請が寄せられたことにはじまる。市および商工会の狙いは、商業振興を念頭にその拠点施設とすべく整備された『ベンチャープラザ那須烏山』の有効活用、さらにその延長線上にある空き店舗対策などが主たるものであったと思われる。しかしながら、呼び掛けに呼応した大学側と市および商工会側との数次にわたる意見交換を経て、商業振興だけに特化せずに観光・伝統工芸支援や高齢者対策など“新市のまちづくり”という大きな括りの中で、大学の教員とその研究生・ゼミ生が那須烏山市をフィールドとして、各々の専門分野を活かして多面的に地域振興に向けたアプローチを行うことを研究会の基本姿勢とした。

このように、研究会の目的は、各大学の専門性を活かして、市民との協働を構築しながら、新生那須烏山市の活性化に寄与することである。そのため、研究会では、各大学の教員と商工会および市商工観光課長による『委員会』を設置し、研究会の意思決定機関としている。この委員会は年3回程度開催され、各大学の研究活動の計画案の審議を行うとともに、テーマによっては必要に応じて調整などが行われる。また、研究活動の実践部隊として各大学・高校の教員と学生・生徒により構成される『研究班』が置かれ、この研究班の活動をサポートするため商工会および市役所各課から成る『協力班』が設置されている。さらに、2011（平成23）年度からは、市の内外で活動しているNPOや市民グループがオブザーバー団体として研究会に加わり、鋭意活動が行われている。

研究会の目的および組織の詳細は、次項の『那須烏山市まちづくり研究会』の組織と構成に示すとおりである。委員会名簿は、2014年（平成26）年4月現在のものである。

# 『那須烏山市まちづくり研究会』の組織と構成

(2014年4月1日現在)

## 1. 目的

那須烏山市を活性化するために、栃木県内の知的資源、並びに活力を活用して市民と共に研究・活動する。

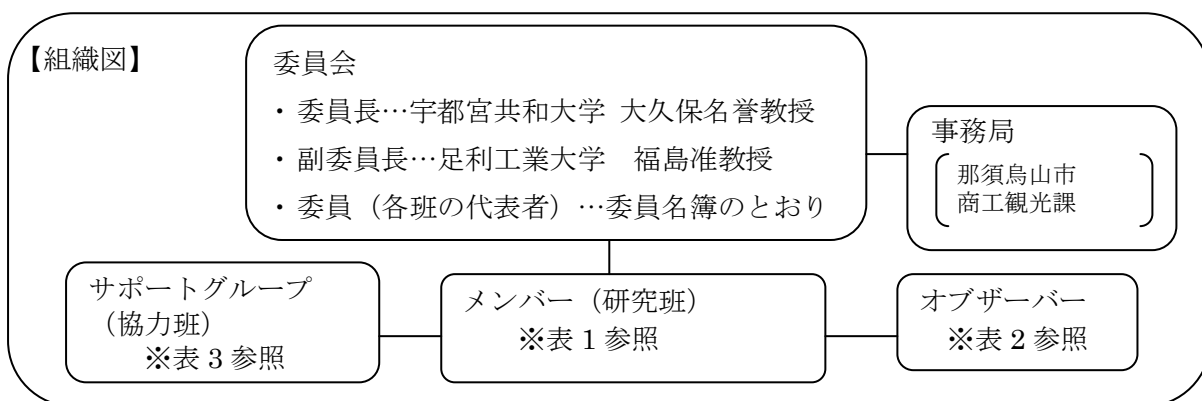
## 2. 組織

自発性・創造性を高める為に、組織化のメリットだけ求めて出来るだけ簡略化する。

## 3. 活動・運営

日々の活動、並びに、活動テーマはメンバー校の自主的な判断で決めて、共通テーマや重複する部分が生じた場合には委員会で共同研究化等の調整を行なう。

また、各活動グループ間の情報交換など、委員長が必要と判断した場合、あるいはメンバーから提案があった場合など、適宜開催することとする。



|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>表 1. 【研究班 (調査活動隊)】<br/>各校の先生と学生</p> <p>(研究・活動の際、場合によっては協力班に協力依頼)</p>  | <p>足利工業大学</p> <p>宇都宮共和大学</p> <p>国際医療福祉大学</p> <p>白鷗大学</p> <p>烏山高校</p> | <p>表 2. 【オブザーバー】</p> <p>大学コンソーシアムとちぎ<br/>産学官連携サテライトオフィス</p> <p>まちづくり支援団体認定グループ等</p> |
| <p>表 3. 【協力班 (サポート隊)】</p> <p>商工会 (各部会長 1 名)</p> <p>商業部会   工業部会   建設業部会   青年部   女性部</p> <p>【事務局】 (経営支援課) (南那須支所)</p> <p>行政 (各課局 1 名)<br/>総合政策課、総務課、税務課、市民課、健康福祉課、こども課、農政課、環境課、都市建設課、上下水道課、会計課、議会事務局、学校教育課、生涯学習課、文化振興課</p> |  | <p>市民</p> <p>(必要時に協力者を募集、又は適任者に依頼する。)</p> <p>【事務局】商工観光課</p>                         |

#### 4. 委員名簿（2014年4月1日現在）

##### （学校側）

- ・ 足利工業大学 工学部 建築・社会基盤学系 空間デザインコース 准教授 福島 二郎
- ・ 宇都宮共和大学 シティライフ学部 名誉教授 大久保 忠旦
- ・       〃                   シティライフ学部 教授 内藤 英二
- ・       〃                   こども生活学部 准教授 高柳 恭子
- ・ 国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 准教授 中田 健吾
- ・ 白鷗大学 経営学部 准教授 山田 徳彦
- ・ 栃木県立烏山高等学校 教諭 藤井 啓太

##### （商工会）

- ・ 那須烏山商工会 商業部会長 皆川 孝行
- ・       〃                   青年部長 海野 篤史
- ・       〃                   経営支援課長 堀江 郁夫
- ・       〃                   南那須支所長 長岡 好美

##### （行政側）

- ・ 那須烏山市 商工観光課長 堀江 功一

##### （オブザーバー）

- ・ 大学コンソーシアムとちぎ 産学官連携サテライトオフィス コーディネータ 石原 眞興
- ・ まちづくり研究会ワークショップグループ 代表 萩原 宣子
- ・ 特定非営利活動法人野うさぎくらぶ 理事長 矢口 和美
- ・ 特定非営利活動法人那珂川流域悠遊会 理事長 小口 格男
- ・ 石ヶ入りの自然を愛する会 代表 大金 文男
- ・ 特定非営利活動法人てとてとて 理事長 鶴見 三代子
- ・ いきいきライフ積翠塾 代表 内藤 正敏
- ・ ゲンキーズ陸上競技 代表 杉山 弘育
- ・ 栃木県消費者リーダー連絡協議会 那須烏山支部 代表 萩原 宣子

##### （事務局）

- ・ 那須烏山市商工観光課 商工担当係長兼総括 星 貴浩
- ・       〃                   商工担当主査 各務 香織
- ・       〃                   観光担当課長補佐兼総括 深澤 宏志
- ・       〃                   観光担当係長 山村 信